

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771000557		
法人名	医療法人 博悠会		
事業所名	グループホームさくらんぼ中島 1階		
所在地	大阪府西淀川区中島1-14-21		
自己評価作成日	平成24年5月15日	評価結果市町村受理日	平成24年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2771000557-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年6月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

名取病院・なとりクリニックと24時間医療連携をとっており、入居者様の健康管理を行っている。ご希望があれば、最期の看取りまでさせていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、「利用者は私たちの家族です」と謳い、自分の親や兄弟姉妹への思いを持って日々支援しています。法人の理念を受け事業所の理念は、「一人ひとりを大切にすること」と掲げて、利用者の思いを引き出す事の大切さを職員間で意識し、日々のケアに当たっています。開設からの経年の中で重度化される利用者の思いをどう聞き出し、其々の利用者の思いの実現がどのように出来るかなど職員間で模索しています。利用者の看取りの支援も行われ、管理者のもとで職員は意見を出し合い、培われた利用者や家族との信頼関係の中で利用者支援に努めています。運営推進会議の席で利用者家族から、看取りの支援に対する感謝の言葉が出されており、今後更に信頼関係が深めていけるよう取組んでいきたいと考えられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様は私たちの家族です」との理念を毎日唱和し、実践に向け努力している。	法人の理念のもとに、事業所では一人ひとりを大切にすることと理念に掲げ、日々の支援に当たっています。出来るだけ利用者の思いを収集し、介護計画に反映しつつ、職員間で理念に沿った支援になっているか振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の行事に参加したり、消防訓練を合同で行っている。	町会の自治会に加入し、花見や消防訓練など情報を得て、参加可能な利用者と共に参加しています。近隣の保育所からは運動会への誘いがあつたり、クリスマスには訪問があるなど交流の機会が持たれています。畑の収穫物の野菜や花が届いたり、ボランティアの来訪などがあり、近隣との関わりが育まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で地域の介護教室を開いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な意見を伺いサービス向上に活かすようにしている。	運営推進会議は、二ヶ月に一度行われ、事業所から行事や状況の報告を行い、意見のやり取りがあります。ボランティアから行事の提案があり職員間で検討し実施したり、利用者家族からは看取りへの感謝の声が上がり、参加者から看取りへの質問などがあるなど、参加者からも積極的な意見が出され、有意義な会議になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人としての連携は密に行っているが、事業所としての関係は積極的に行っていない。区グループホーム連絡会に参加している。	様々な市の窓口とのやり取りは、法人を通じて行われています。運営推進会議の議事録の提出も含めて法人の担当者を通じて行われており、市の窓口に出向きグループホームへの理解をより深めたいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動を制限せず、自由に動けるように支援している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎年研修を行い、事あるごとに拘束をしないケアについて会議などで職員間で話し合っています。家族には意向を伝え同意を得て各フロアの扉は人手の足りない時には施錠をしていますが、基本的には玄関の施錠は夜間以外は開放しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、法人内部の研修において学んでいる。行動を制限する行為は行わず見守り、声かけを徹底している。		

グループホームさくらんぼ中島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、法人内部の研修において学んでいる。資料や助言を必要としている方には提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を説明し十分に理解していただいた上で署名押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営委員会、意見箱でいただいた意見、苦情は直ぐに対応し、ミーティングを行い反映させるようにしている。	家族からは、面談時や敬老会などの行事の際に意見を聞くようにしています。入浴回数への要望など出された意見や声を基に職員間で検討し、個別のケアに対する意見などはケアプランに反映するなど運営への改善に向けた努力をしています。	家族には機会があれば意見を聞いていますが、更にアンケートを取るなど幅広い声を聞き取り、培われた家族との絆がより深まる機会を作られては如何でしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアにて月1回のミーティング、3ユニット全体で月1回のミーティングを実施して職員の意見を反映させている。	職員会議やフロア会議で職員は意見を出し合っています。日々のケアの中でも、職員は気づき、困ったことなどないかなど声をかけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の介護に対する考え方や姿勢を把握し、働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、法人内部の研修の情報を知らせ、参加できる環境を作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホーム連絡会にて他施設を訪問し情報交換したり、法人内の勉強会に参加し交流を深めたり意見交換したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話を聞き安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの様子や状況を伺い、今後のとりくみについて話し合い、安心していただけるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を伺い、必要なサービスを検討し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話や、知恵等を教えていただくことが多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話しをする時間を多くとり、ホームでの生活のあり方を、一緒に考えていけるようにしている。電話連絡も密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活を大切に、地域との交流を図っている。家族、知人の訪問も多くあり、なじみの関係が継続できるようにしている。	入居以前に行き慣れた美容院への送迎を行ったり、友人や知人の来訪時には、一緒に会話が弾むように支援しています。また、古くからの友達から届く絵手紙を、居室に飾れるよう工夫するなど、利用者の馴染みの関わりを大切に考え支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、コミュニケーション作りのきっかけとなるようにしている。レクリエーションの場を通して共に作業したり、楽しんだりしている。出来る事は支え合っている。		

グループホームさくらんぼ中島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には面会に伺い、支援出来る事を続けたり、家族の相談にのったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしを大切に、希望に添えるように努めている。困難な場合には、代替案を提供し納得していただけるようにしている。	家族から情報を得て暮らし方への思いを聞いたり、利用者本人からは具体的な言葉を収集し、思いの把握に努めています。利用者の表情などから利用者の立場に立つことで本人本位になるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を尊重し、出来るだけ、今までの生活に添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフで担当を決め、状態の観察を行い、把握するようにしている。カンファレンスを開催し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族からの情報、意向等を伺い、変更や見直しはチームで意見交換し、反映するようにしている。モニタリング、カンファレンスを開き、見直し・評価し介護計画に反映させている。	利用者本人や家族の意向だけであったりする事もありますが、それぞれの要望を取り入れ介護計画を作成し、4ヶ月ごとに見直しを行っています。職員は毎月モニタリングを行い評価すると共に、随時見直しに繋がっています。訪問時のかかりつけ医や看護師の意見などもプランに反映しています。今後に向けて、職員や医師の意見を事前に集め、カンファレンスに臨む意向です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日勤者、夜勤者で記入し、一週間毎に評価し、情報を共有している。必要時にはカンファレンスを開催し計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスだけでなく、地域へ出掛けたり、ボランティアの受け入れ等により、本人、家族の要望に答えるようにしている。		

グループホームさくらんぼ中島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に積極的に参加したり、施設行事に参加していただいたりして、地域と交流を深め、豊かな気持ちで生活していただけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との関係を築き、必要な時に受診できるように支援している。	契約時にかかりつけ医を選択してもらっています。事業所の医療体制や往診の状況を伝え、大部分の方は法人の医療機関を選んでいます。眼科や皮膚科など継続したかかりつけ医には、主に家族の受診や時には受診の支援を行い、情報のやり取りを行う中で利用者の健康管理に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護職員、訪問看護師に情報を伝えたり、相談したりしている。緊急時、24時間の対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族の意向を伺い、病院関係者とも情報交換しながら、早期の退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に意向を伺っている。状態に応じた段階には、家族、主治医と話し合いをもち方針を共有している。	入居時には看取りについての意向を聞き、重度化する中では再度医師を交え家族との話し合いを行っています。実際にも看取り支援の経験が多くあり、職員間で様々な学びやチームワーク、家族との連携の中で利用者の終末期の支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会にて、定期的に緊急時の対応、事故時の応急処置などを学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行なっている。町会の協力も得て合同で訓練している。	年二回消火訓練を中心に訓練を行い、運営推進会議でもテーマに取り上げ地域の支援を得ています。地域の防災訓練にも参加し、法人による備蓄や大規模災害の対策が地域ともに話し合われています。	

グループホームさくらんぼ中島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通じて学び、人権の尊重に努め、言葉使いや対応に気をつけている。	法人の研修や会議の席で職員の理解を深めています。目上の方への声かけを意識した言葉使いと考えて対応しており、気になる事があれば個別に注意を促すようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から、希望や不安を聞きだし、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、希望に添えるようにしている。希望に添えない場合には、代替案を提示し納得していただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は月1回、外部業者に依頼し希望の髪形にしている。服装等は希望の物を購入したり、着衣したり出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や準備、片付けなど、出来る範囲で、一緒に行っている。	業者からの配食を受け、食事の時間は職員と一緒に食卓を囲み会話を楽しんでいます。利用者には出来る範囲で携わってもらうようにし、配下膳や食器拭きなどで力を発揮して頂いています。敬老の日やクリスマスなどは、行事食でバイキングや弁当など楽しみとなるよう工夫をしています。おやつを買いに行ったり、個別にファミリーレストランに行くなどの支援もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェックし、少ない方には補食(ゼリー、プリン)、代替品(好きなもの)を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、誘導、介助等、一人ひとりに合わせた援助を行っている。歯科訪問時には医師、衛生士に相談したり指導を受けることが出来る。		

グループホームさくらんぼ中島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、リズムを把握し、出来る限りトイレで排泄出来るように、またオムツの使用を減らすようにしている。	基本的にはトイレでの排泄を支援しています。排泄時間を把握し、声かけを行い利用者毎の習慣に合わせて支援する中で失敗を無くすようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に応じて牛乳やヨーグルト等を提供したり、運動の機会を設けたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回ゆったりと入浴して頂き、午前、午後と対応している。拒否のある場合は、日にちを特定せず、毎日声掛けし気分の良い日に納得して入浴していただく。	入浴時間は朝から夕方までで、希望があれば毎日の入浴であっても出来るだけ要望にこたえる意向にあります。実際には週2回を目途に入浴支援を行っています。広い浴室で、室温や湯温に注意を払うようにし、時には入浴剤を利用したり好みのシャンプーを利用するなど入浴が楽しいものになるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態を観察し、本人、家族の希望を取り入れ主治医、看護師と相談しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方箋を確認し、服薬後の様子観察を行っている。医師、看護師、薬剤師に相談することが出来る。薬剤の勉強会を法人内で開催している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵、書道など得意なことを活かしたり、洗濯、掃除等、一緒に行っている。レクリエーションの時間を設定し歌、体操、ゲーム等の機会を提供している。個別のレクリエーションも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前のガーデンセットで日光浴をしたり、近所の公園に出掛けたり、地域との交流に参加出来るようにしている。	利用者が重度化する中で外出機会が少なくなってきました。玄関前の広場で日光浴をしたり、個別の支援で買い物や食事に出かけています。また桜の季節には近くの公園で花見をするなど楽しんでいます。	

グループホームさくらんぼ中島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に添えるように管理している。希望の物を購入したり、催しや行事参加の折には希望通りに使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るくし、ゆったりと過ごせるようにしている。職員と共同で作った装飾で季節感を味わうことができるようにしている。	温湿度計や加湿器の設置し、冬場には炬燵になるテーブルがあり、安全に配慮しつつ居心地の良いよう工夫されています。窓からの景色だけではなく、職員が切り花を持参するなど季節感を大切にしています。利用者の習字の作品や、皆で作ったちぎり絵や多くの写真が楽しみとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を工夫したり、本人の希望により変更したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年馴染んだものを置いていただいたり、本人の希望に応じ配置をしたりしている。レクリエーションで作成したもの等も飾っている。	利用者には馴染みの家具を持参してもらうよう声を掛けており、それぞれに整理ダンスや鏡台、机や椅子などが配置されています。友人から届く絵手紙を職員が手伝って壁に飾っていたり、家族の写真や人形など思い思いの設えがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下手すりの配置、理解しやすいように絵や文字での場所表記等の工夫をし、利用者の出来る事を大切にしている。		